

ぞうさん広場

vol.10
2016冬号



インタビュー
特集

「患者さんの安全を守る市立病院」としての役割 鏡視下手術における 低侵襲治療への取り組み

看護師のお仕事紹介

慢性疾患看護専門看護師

コメディカルの紹介

臨床工学科

当院の取り組み

初期・後期研修医育成計画

がんセンター特集

がん患者・家族サロン「なないろ」

チーム医療の活動

感染制御チーム(ICT)

登録医紹介

こんにちは赤ちゃん

健康食のススメ



地方独立行政法人 堺市立病院機構

堺市立総合医療センター

SAKAI SAKAI CITY MEDICAL CENTER

ぞうさん広場

第10号 平成28年12月1日発行

発行

堺市立総合医療センター 〒593-8304 大阪府堺市西区家原寺町1丁目1番1号 ☎072-272-1199(代)

こんにちは赤ちゃん/

当センターでたくさんの赤ちゃんが生まれています!



蒼空(そら)くん
平成28年8月5日生

♥welcome♥

蒼空くん、生まれてきてくれてありがとう!広い空のように優しく元気にそだってね。お姉ちゃんと一緒にたくさん遊ぼうね!



梨鈴(りり)ちゃん
平成28年8月8日生

♥welcome♥

待望の女の子で、ママもパパも生まれてきてくれてとっても嬉しいです!元気なお兄ちゃんと一緒に元気にすくすく育ててね。



花織(かおる)ちゃん
平成28年8月15日生

♥welcome♥

パパもママもお姉ちゃんも、毎日かおるに癒され、日々の成長を楽しみにしています☆家族4人、楽しいことをたくさんしようね!



陸翔(りくと)くん
平成28年8月16日生

♥welcome♥

生まれてくれてありがとう。毎日幸せ!これからたくさん思い出作っていきましょうね。

健康食のススメ

血圧が高めで
気になる方に

秋鮭ときのこの カレーあん

血圧が高い方は、塩分を1日6g未満に控えるとよいと言われています。ただ塩分を減らすのではなく、酸味(酢、柑橘類)や香辛料(こしょう、唐辛子、わさび、カレー粉など)、香味野菜(生姜、にんにく、大葉など)をかき混ぜると素材の味により生かされて、美味しい料理になります。



栄養価(1人分)

エネルギー 155kcal
塩分 0.9g

材料(2人分)	生鮭(1切れ70g)...	2切れ	酒.....	大さじ1/2
	塩(2本指で).....	2つまみ	みそ.....	小さじ2
	こしょう.....	適量	みりん.....	小さじ1
	酒.....	大さじ1/2	カレー粉...	小さじ1
	しめじ・えのき・ エリンギ.....	各1/2パック (50g)	片栗粉.....	小さじ1
	彩り野菜 (いんげん、パプリカなど)...	30~40g		

【作り方】

- 生鮭は塩・こしょうし、食べやすい大きさに切る。きのこ類は根元を落とし、しめじは小房に分け、えのきは半分に切り、エリンギは裂く。いんげんは斜め切り、パプリカはせん切りにする。
- 耐熱皿に①のきのこ類、野菜を入れ、上に鮭をのせ、酒(大さじ1/2)をふる。
Aを加熱直前によく混ぜ合わせてかける。ラップをゆるくかけ、電子レンジ(600W)で5分程度加熱する。すぐに全体をよく混ぜ合わせて(あんをからめて)、できあがり。

栄養管理科 渡邊 薫子



地方独立行政法人 堺市立病院機構

堺市立総合医療センター

SAKAI SAKAI CITY MEDICAL CENTER

〒593-8304 大阪府堺市西区家原寺町1丁目1番1号 ☎072-272-1199(代)
http://www.sakai-city-hospital.jp/

「患者さんの安全を守る市立病院」としての役割 鏡視下手術における 低侵襲治療への取り組み

皮膚を大きく切り開く開腹手術や開胸手術と違い、身体への負担や痛みを
やわらげてくれる「鏡視下手術」について、お話を伺いました。



教えて！
病院のお仕事

左から:

呼吸器外科部長

外科統括部長／胃食道外科部長

大腸肛門外科副部長／低侵襲手術担当部長

池田 直樹 医師

藤田 淳也 医師

中田 健 医師



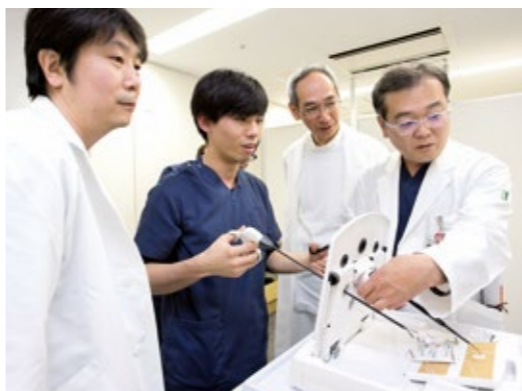
鏡視下手術とは？

通常の「開腹・開胸手術」は、皮膚をメスで切り開き、体の中を直接目でみて、手でさわりながら手術を行います。これに対して「鏡視下手術」は、皮膚面に数ヶ所の小さな穴を開け「腹腔鏡」「胸腔鏡」をお腹や胸の中に入れて、モニターを見ながら体の中で行う手術です。中には「内視鏡手術」と混同してしまう方もいらっしゃると思いますが、こちらはいわゆる「胃カメラ」を用いて胃腸の内側からがんやポリープを切り取る治療法です。最近では「内視鏡切除術」と「腹腔

鏡手術」を同時に行って治療する場合もあります。

鏡視下手術のメリットを 教えてください。

大きく言えるのは、傷が小さいということ。これが開腹・開胸手術との違いです。傷が小さいぶん、痛みが軽く体も楽に動かすことができるので、術後の体力の回復も早いといえます。美容上も大きなメリットがあります。手術をする外科医の立場から見れば、機械を使って手術ですので高い技術が必要とされます



が、肉眼では見えにくいような細い血管や内臓の構造が大きな画面で確認できるので、より安全で精密な手術ができる点が優れています。鏡視下手術では、手術室以外の場所でも手術の映像をモニターで確認することができ、実際どのような手術をしているのかがすべてわかります。手術中の状況を共有できるので安全性にもつながります。

実験物を使った手術の研修を受けたりする機会を設けています。

鏡視下手術はどれくらい 行われていますか？

胃がんの40%、大腸の80%、90%、肝胆膵は60%が腹腔鏡手術です。肺がんの手術では場合によっては従来の開胸手術でも胸腔鏡を併用し、開胸手術、鏡視下手術にこだわらず、100%安全な手術をめざすよう心がけています。また、虫垂炎や鼠径ヘルニアの手術でも腹腔鏡手術の頻度が増えてきました。

胃がんの40%、大腸の80%、90%、肝胆膵は60%が腹腔鏡手術です。肺がんの手術では場合によっては従来の開胸手術でも胸腔鏡を併用し、開胸手術、鏡視下手術にこだわらず、100%安全な手術をめざすよう心がけています。また、虫垂炎や鼠径ヘルニアの手術でも腹腔鏡手術の頻度が増えてきました。

低侵襲かつ安全な 手術を行うために 取り組んでいることは？

シミュレーターを使用してのデモンストレーション、鏡視下手術の映像をみながらのトレーニングなどを行っておりま。患者さん相手ということではなく、映像や機材を使い、いつでもどこでもくり返して取り組めるので、若手医師の教育にも最適です。その他、専門の先生にお越しいただき、セミナーを聞いたり、トレーニングセンターで生きた実

たとえば他の病院で手術が難しいと判断されたがん患者さんには、化学療法放射線治療を経て腫瘍を小さくしてから手術をするなど、患者さんに希望を持ってもらえるよう

鏡視下手術以外の 取り組みは？

たとえば他の病院で手術が難しいと判断されたがん患者さんには、化学療法放射線治療を経て腫瘍を小さくしてから手術をするなど、患者さんに希望を持ってもらえるよう



今後の目標・課題は？

現在、術前の診断、手術、術後、その後のリハビリケアま

堺市立総合医療センター における外科の強みを お聞かせください。

で、外科ですべて対応できるようにしています。今後も、よりよい医療の提供に向けて、新しい技術が入ってきたら積極的に取り入れていきたいと思っています。また、予定手術だけではなく、緊急手術においても積極的に鏡視下手術を取り入れていきたいと考えています。

当院には、内視鏡外科学会の技術認定医制度に認定された医師2名が在籍していますので、安心して診断を受けていただけます。また、他院では難しいとされる診療や夜間の対応なども、スタッフ間のコミュニケーションがスムーズなので、迅速な対応が可能です。さらに、すべての手術室は鏡視下手術に対応しており、設備の面でも最新かつ最高レベルに近い環境で診療が行えます。



チーム医療を支える コメディカル

コメディカルとは医師と看護師以外の医療従事者のことで、それぞれの専門分野で医療に携わっています。医師・看護師とチームを組み、よりよい医療の提供のために欠かせない存在です。

臨床工学科

医療の現場にはたくさんの医療機器があり、その進歩が現在の医療を支えていると言っても過言ではありません。これらの医療機器を、安全かつ高い性能で維持するために、多くの医療スタッフが関わっています。そのなかに、「臨床工学技士」という医療スタッフで構成された「臨床工学科」があります。最近、臨床工学技士という名称は、医療系のドラマなどで耳にする機会が増えてきました。今回は、この臨床工学技士についてご紹介します。

臨床工学技士とは？

臨床工学技士は、医療の発展とともに多種多様な医療機器が導入され、それにともない誕生した医療機器のスペシャリストです。当院の臨床工学技士は、さまざまな医療機器に精通しており、数多くの業務を行っています。そして、医師・看護師や他の医療スタッフとチームを組み、医療機器を通じて医療に携わり、機器の操作やメンテナンス・点検などを担当します。

今回は、「人工心肺業務」「ロボット手術業務」についてご紹介します。

事例① 高度な技術が必要な心臓血管外科手術における人工心肺業務

心臓血管外科手術では、心臓やその周囲の大きな血管を手術するとき、心臓を止めることが必要になります。その際、肺と心臓の代わりにする「人工心肺装置」という装置を患者さんに装着します。この人工心肺装置を操作・管理するのが臨床工学技士です。人工心肺は患者さんの生命を司るものですから、その操作には高いレベルの技術と知識が必要とされます。



事例② これからの医療を支えるロボット手術業務

ロボット手術とは、医師が離れた場所から手術支援ロボットを操作して行う手術です。手術支援ロボットを使用することで、繊細かつ患者さんへの負担の少ない手術が可能となり、より安全に手術を進めることができます。当院では最新の手術支援ロボット『ダビンチXi』を導入し、前立腺がんの手術を行っています。

テレビなどの報道により、手術支援ロボットによる外科手術の認知度がかなり高まってきました。今後、その技術の応用は拡大していくと考えられています。

臨床工学技士は『ダビンチXi』の手術セッティングならびにメンテナンスを行い、患者さんに安全で高度な技術を提供できるようにしています。



臨床工学技士のお仕事を、簡単にご紹介させていただきました。臨床工学科は、医療機器のメンテナンスをはじめ、さまざまな治療に携わっています。そこから得た情報を医療チームに提供し、さらなる医療の質の向上をめざしています。医療の進歩とともに歩んできた部署であり、これからもその技を活かし、患者さんにとって安心して安全な医療機器でさらなる高度な医療を提供していきたいと考えています。



看護師にはこんなお仕事があります！

看護師のお仕事紹介

「慢性疾患看護専門看護師」



田中 順也 看護師

慢性疾患とは、完治することが難しい病気です。だからこそ、その病気と上手に付き合っていくことが必要です。しかし、「病気と上手に付き合うこと」は難しいと言われています。慢性疾患看護専門看護師の役割は、自己管理が難しく悩んでいる患者さんが、病気の悪化を予防し、病気を抱えながらも元気に過ごせるお手伝いをすることです。

今回は、腎不全保存期外来での慢性疾患看護専門看護師のお仕事についてご紹介します。

腎不全
保存期外来

病気を抱える人たちの笑顔と人生を守る

慢性疾患の代表的なものの一つに腎不全があります。腎不全とは、腎臓の機能が低下する病気です。特効薬がなく、慢性的な経過で悪化すると、人工透析や腎移植という腎代替療法が必要になってきます。そのため、腎不全保存期外来では、3つの支援を中心に行っています。



大武 陽一
医師



森本 まどか
医師

支援
1

患者さんが腎不全と向き合い、自己管理を実行・継続できるようにするための支援

腎不全という病気は、自覚症状が出にくい病気なので、患者さんの多くが、「腎臓が悪いなんて信じられない」と思ってしまう、病気と向き合うことがむずかしくなってきます。ですから、まずは患者さん自身が病気と向き合えるように支援することから開始します。さらに、食事や薬の自己管理が日常生活の中で継続できるように、生活調整の支援もしています。

支援
2

患者さんやご家族の意思決定の際の支援

腎代替療法が必要になった場合、どの治療法を選択し、いつから治療の準備をし、治療を開始するのかを患者さんやご家族が決断しなければなりません。意思決定支援では、決断に至るまで患者さんやご家族と共に考え、納得した治療法が選択できるよう寄り添いながら支えることを心がけています。

支援
3

外来での精神的支援

腎不全の患者さんは、「なぜ自分だけこんな目に遭うのか」など、孤独感や孤立感を抱きやすい傾向にあります。また、患者さんのご家族も療養を支える中で、精神的に疲弊してしまうことがあります。私たちが行う精神的支援は、ただ単に励ましたり、勇気づけたりするのではなく、まずは患者さんやご家族が抱える悩みや葛藤を共有することから始め、私たちも共に歩んでいるという立ち位置で支援することを心がけています。

当院の腎不全保存期外来では、患者さんやご家族に寄りそった支援を行うために、看護師の私たちだけでなく、腎臓専門医と情報共有しながら、医師は治療を、看護師は療養支援を協働しながら行っています。また、食事の専門的知識に関しては、管理栄養士の協力を得ながら行っています。さらに、腎代替療法を選択し入院となった場合は、病棟看護師と連携し、外来から病棟に看護ケアがきちんと継続できるように取り組んでいます。

今後、高齢化が進み、ますます腎不全患者の増加が懸念されています。腎不全保存期外来が、腎不全患者さんやご家族の笑顔を守り、人生を豊かなものにするために、医師や医療スタッフと連携しながら、よりよい支援の実現をめざします。

慢性疾患看護専門看護師 田中 順也

「教え教えられる文化の中で優れた人格を持ち、
世界の医学と地域の医療に貢献する医師を育む」

初期・後期研修医育成計画

堺市立総合医療センターのさまざまな場面で、若い医師が上級医の指導を受けながら真摯に患者さんの診療に携わっていることをご存知ですか？当院は厚生労働省から「臨床研修病院」に指定されており、大学の医学部で6年間教育を受け、医師国家試験に合格した若い研修医の教育を担当しています。現在、卒後1・2年目合わせて16名の研修医が所属し、内科や外科などを廻りながら熱心な指導医のもとで日夜研鑽に励んでいます。



新医師臨床研修制度とは？

これまでの医師卒後教育は、地域医療との接点が少なく、専門の診療科にかたよっており「病気を診るが人は診ない」と言われていました。そこで厚生労働省は、2004年から新医師臨床研修制度を開始し、診療に従事しようとする医師が2年以上大学病院や地域の臨床研修病院で研修を受けることを必修化しました。それまでは多くの医師が医学部卒業後すぐに専門診療科を決めて、その診療科のことだけを研修していましたが、内科や外科、救急などの主要な診療科と、研修医が希望する診療科を2年間で経験するシステムに変更しました。そしてこの卒後2年間の初期臨床研修を修了した後に、専門診療科を選ぶ制度になりました。



「臨床研修病院」としての役割

新医師臨床研修制度がスタートして以来、当院は「臨床研修病院」として堺市で多くの優秀な医師を育み続けています。2015年には、新たに「教え教えられる文化の中で、優れた人格を持ち、世界の医学と地域の医療に貢献する医師を育む」という臨床教育の理念を掲げ、指導医だけではなく看護師や薬剤師、検査技師、理学療法士などのコメディカルや事務職員による指導はもちろん、患者さんや市民の皆さんとの関わりを通して、立派な研修医を育てるために臨床研修を進めています。

大里副院長のもとで編成された臨床

教育研究センターは、卒後教育のさらなる充実を図っており、現在は年に4回の臨床研修管理委員会や指導者会議、さまざまな診療科の医師からなるサポートチーム会議を開催するなど、研修医の成長を見守っています。研修医にとって「お兄さん・お姉さん」となる専属の事務職員を医局に2名配置し、医学生や研修医向けの臨床教育研究センターのホームページも開設しました。



「NPO法人卒後臨床研修評価機構」認定病院の使命

2015年度に、外部評価として国民に対する医療の質の改善と向上をめざすために、臨床研修病院における研修プログラムの評価を行う「NPO法人卒後臨床研修評価機構」の審査を受け、2016年5月1日に認定されています。

花房院長も次世代の教育に熱心で、月2回の早朝カンファレンスでのレク

チャーや総合内科の回診では毎週、直接研修医を指導しています。院長の背中を見て「心の通う医療」を体得してもらいたいと感じています。



今後の臨床研修における取り組み

厚生労働省の方針で、都会への医師のかたよりを正すために、大都市圏をもつ都道府県の初期臨床研修医の定員は毎年削減されています。しかし、臨床研修への取り組みが認められた当院の初期臨床研修医の定員は、2015年度の7名から2016年度には9名と増員されました。さらに2017年の春には10名の初期研修医を迎える予定です。当院の研修医が「心の通う医療」を提供できる医師になるように、卒後教育にあたっていきたいです。

また、2018年度からは日本専門医機構が主導する新たな専門医制度による後期臨床研修が始まり、国民及び社



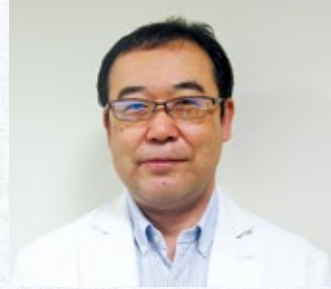
会により信頼されることに主眼を置いたシステムが稼働します。堺市立総合医療センターは新しい制度に対応し優秀な医療人を育む先進的な取り組みを続けて行きます。さらに当院では、お互いに自分が経験したこと、自分が医学書や医学論文で調べたことを教え合い高め合って、仲間として一緒に成長していく協調性のある人材を募集しています。皆さんのお知り合いでそのような方がいらっしゃいましたら、堺市立総合医療センターを臨床研修先としてご紹介ください。医学部学生の見学・臨床実習も受け付けており、毎年志の高い多くの医学生が訪れています。



日本の人口の高齢化、いわゆる2025年問題が取り上げられている中、この堺市ですばらしい地域包括医療の花が咲き市民の健康が守られるように、将来この地域の医療の指導的立場になる人材を育てるといふ面から、医学教育を通じて堺市に貢献していきたいと思っております。また、将来の堺市の医療を支える人材、世界の医学に貢献する人材をこの堺の地で育むことを念頭に、日々臨床教育に取り組んでおります。これから市民の皆さん、地域医療にかかわる皆さんに、研修医がお世話になることがあるかと思っております。若い研修医たちへの励ましの言葉をいただければありがたいと思います。これからは臨床教育へのご理解と将来ある臨床研修医たちへの暖かいご指導ご支援をどうかよろしくお願ひ致します。

臨床教育研究センター 臨床研修プログラム責任者 片田 圭宣

当院の登録医の先生をご紹介します



中区深井中町
医療法人 いむた内科
 藺牟田 直彦 院長



中区土師町
山口医院
 山口 眞司 院長



北区北花田町
いずみ皮膚・形成外科クリニック
 泉憲 院長



堺区中之町
いしだクリニック
 石田 佳代子 院長

◆**私の診療モットー**
 地域に根ざした医院として、患者さんの最初の窓口になれるようにしています。当院で解決できることは、いろいろな手段を使ってみようと思っております。ですから、

◆**当院の特長**
 クリニックでは珍しい神経内科を専門に扱っています。頭痛や認知症など、主に大きい病院で診療するような病気を診れるのが特長です。初期段階の認知症患者さんも来られており、高齢者の方などは大きい病院まで行くのは大変なので、当院でなるべく診療治療ができるように、いろいろな診療機器もそろえています。

◆**私の診療モットー**
 「山口医院に行けば何とかなる」と皆さんに言っていただける医院をめざし、安心して治療を受けていただける対応を心がけています。どんな些細なことでもご相談ください。

◆**当院の特長**
 内科、小児科、リハビリテーション科、漢方治療など幅広い分野に対応しています。最近では乳がん検診を受ける方が増えたので、女性外来は女医が担当しています。私自身は人間ドックを行ったり、交通事故で負傷した患者さんを受け持ったりしています。今後は、訪問診療にさらに力を入れていきたいと考えています。

◆**私の診療モットー**
 患者さん目線で診療することを

◆**当院の特長**
 下肢静脈瘤手術、皮膚腫瘍、眼瞼下垂の手術を日帰りで行っています。私自身、急性期病院で勤務医をしていた経験があり、怪我や火傷、傷、皮膚のできものなど、迅速に対応させていただけます。他にも自費診療ですが、脱毛やピーリングなど、美容皮膚科もしております。当院には、エステなどでは使用できない医療用レーザーも備えております。エヌテなどの永久脱毛は、期間があくと戻ってしまうことがあります。当院ではその心配はありません。

◆**私の診療モットー**
 働く女性・お母さんを応援したいと思っています。たとえば子どもの予防接種は、日にちを決めてもなかなかその日に合わせられませんので、あえて予防接種枠は設けず、診療時間内なら随時受け入れるようになっています(申し込みは必要です)。逆

◆**当院の特長**
 父が開業した辻村医院のあと、数年の休院を挟んで名称変更し21年前に開院しました。自身の専門である内科消化器科だけでなく、整形外科医がリハビリテーションの診療も行っており、幅広い年齢層の患者さんに来ていただいております。

◆**地域の皆さんへのメッセージ**
 神経内科を専門としておりますが、それ以外でも何か不安なことがあれば相談に来てください。自分の持っている知識と経験でひとり一人の患者さんにとって、最良の選択をして地域の皆さまの健康を守ってきたいと思っています。

◆**当院の特長**
 漢方なども治療に取り入れております。大きな病気を見逃さないのもちろんですが、些細な相談に対しても真摯に耳を傾け、症状を少しでも軽くできるよう心がけています。また、よりよい医療の提供のために、近隣の総合病院や専門医療機関との連携も積極的に進めています。

◆**私の診療モットー**
 不安をやわらげ、支えになりたいと考えています。「患者さんに元氣になってもらいたい」、その一心で診療に取り組んでいます。

◆**地域の皆さんへのメッセージ**
 地域医療に従事して今年で34年目を迎えます。これからも皆さんに馴染みのある、ご家族で安心して気軽にかかれる医院として、地域に密着した診療をしていきたいです。なおかつ、質の高い医療を提供できるよう、努力を続けていきたいと思っています。どんな症状でもまずはお気軽にご相談ください。

◆**私の診療モットー**
 患者さん目線で診療することを

◆**地域の皆さんへのメッセージ**
 今年9月に開院して、まだ数か月しか経っていませんが、形成外科、美容皮膚科、一般皮膚科を中心に患者さんにとって、よりよい医療の提供をめざしてまいります。スタッフ一同、日々患者さんのために尽くしていきたいと思っておりますので、お気軽にご来院ください。

◆**私の診療モットー**
 働く女性・お母さんを応援したいと思っています。たとえば子どもの予防接種は、日にちを決めてもなかなかその日に合わせられませんので、あえて予防接種枠は設けず、診療時間内なら随時受け入れるようになっています(申し込みは必要です)。逆

◆**地域の皆さんへのメッセージ**
 私自身この地域が生まれ育った場所です。幸せなことに、自分が通っていた幼稚園・小学校の校医を務めさせていただいております。地域の皆さんとは安心できる関係を築くことができ、気兼ねなく来ていただけるクリニックであると思っています。もちろん堺市立総合医療センターなど、他の病院とも連携をとり、紹介させていただきますいております。遠慮なくご相談ください。



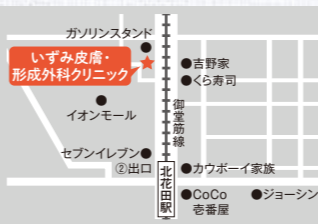
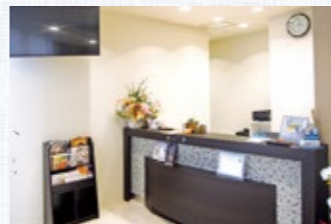
診療科目 / 内科、神経内科、リハビリテーション科
 診療時間 月 火 水 木 金 土 日
 9:00~12:00 ○ ○ ○ ○ ○ ○ /
 16:00~18:30 ○ ○ / ○ ○ ○ /

堺市中区深井中町759-1
 ★北高高速鉄道「深井駅」よりタクシー約5分
TEL:072-278-0336
<http://imuta-naika.com/>



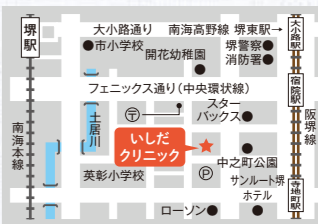
診療科目 / 内科、消化器科、アレルギー科、リハビリテーション科、放射線科
 診療時間 月 火 水 木 金 土 日
 9:00~12:00 ○ ○ ○ ○ ○ ○ /
 17:00~19:30 ○ ○ / ○ ○ ○ /

堺市中区土師町1-27-3
 ★北高高速鉄道線「深井駅」より徒歩約25分
TEL:072-279-5525
<http://yamaguchi-clinic.s2.weblife.me/>



診療科目 / 形成外科、美容皮膚科、一般皮膚科
 診療時間 月 火 水 木 金 土 日
 9:30~12:30 ○ ○ ○ ○ ○ ○ /
 16:00~19:00 ○ ○ / ○ ○ ○ /

堺市北区北花田町3-45-40
 ★御堂筋線「北花田駅」より徒歩約3分
TEL:072-250-7870
<http://www.izumi-cl.com/>



診療科目 / 内科、消化器科、リハビリテーション科
 診療時間 月 火 水 木 金 土 日
 9:00~12:30 ○ ○ ○ ○ ○ ○ /
 16:30~19:00 ○ ○ / ○ ○ ○ /

堺市堺区中之町西3-1-15
 ★南海本線「堺駅」より徒歩約8分
TEL:072-222-2269
<http://www.ishida-clinic.info/>
 ○リハビリテーション科診察あり

ICT(感染制御チーム)

ICTとは、Infection control team(感染制御チーム)の略で、院内全体の感染制御の役割を担う組織です。医師・看護師・薬剤師・検査技師・事務員がチームとなり、院内感染対策に携わっています。

当院のICTは、平成5年に立ち上げられてから徐々に活動を積み重ねてきました。その後、平成12年にリンクナース制度が発足しました。リンクナースは、自部署での感染管理の責任者としてICTとともに活動しており、ICTと各現場の橋渡し役で、各病棟、外来、手術室、中央部門の看護師より1名ずつ任命されています。

ICTは院内感染から患者さんを守り、さらには医療従事者の安全を守るために日々活動しています。

今回は、当院のICTの主な活動内容をご紹介します。



その1

◆ 院内感染発生時の調査対応 ◆ 院内感染や感染対策上注意が必要な微生物が検出された際に、対応や相談を受けます。感染の原因や経過などを調査し、医師・看護師への助言や指導を行います。



その2

◆ ICTラウンド ◆ 病棟は週1回、病棟以外の部署は月1回巡回します。感染症の発生状況の確認や抗菌薬使用状況の確認、感染対策が適切に実施できているかの確認を行います。

その3

◆ 感染予防策の立案 ◆ 手指衛生などの標準的な感染予防策や、手や物を介して感染する接触感染などの予防策が適切に行えるよう、物品の選定や配置、手順や感染対策マニュアルの作成などを行います。また、院内で検出される微生物や感染症の発生数(率)を把握・分析し、感染率低減のための対策立案などを行います。



その4

◆ 職員の教育 ◆ 毎年、春と秋に全職員を対象に学習会を開催します。その他に、リンクナース勉強会、入職時オリエンテーション、職種別研修など、必要に応じて小グループへの教育を行います。

その5

◆ 職員の院内感染防止 ◆ 医療従事者は、業務中にさまざまな感染症にさらされる危険性が高く、感染すると患者さんに感染させてしまう危険性もあります。職員の抗体価検査およびワクチン接種、血液や体液からの感染を防止する対策の立案などを行います。



その6

◆ 感染防止対策のための他施設連携 ◆ 当院は6施設と連携し、うち3施設とは年4回の合同カンファレンスを開催しています。他の3施設とは年1回お互いの施設を訪問して院内ラウンドを実施します。現在、感染対策は地域での底上げを求められており、当院も他施設と連携し院内外の活動をしています。

これから、インフルエンザやノロウイルスなどによる感染性腸炎が流行します。これらの感染を拡げないためにも、石鹸と流水による手洗いや、アルコール製剤による手指消毒など「手指衛生」を日頃から徹底することが最も重要です。またインフルエンザでは、せきやくしゃみなどの呼吸器症状がある人はウイルスの拡散を防ぐためにマスクを着用するなど「せきエチケット」も重要です。これらの感染対策はご家庭でも有効ですので、徹底していただければと思います。なお、インフルエンザは症状が出現する24時間前から他の人への感染力を持ちます。そのため当院では、インフルエンザ流行時期は全職員に、就業中のマスク着用を義務づけています。

がん患者・家族サロンは、こんなところですよ！

がん患者・家族サロンでは、がんに関する情報が入手できるよう、書籍やパンフレット等を多数準備しています。テーブルと椅子をご用意していますので、ゆっくりと座って書籍等をご覧いただくことができます。パンフレット等はご自由にお持ち帰りいただけます。また、ウィッグや帽子の見本を展示しています。



● **がん患者・家族サロンは、どこにありますか？**

2F化学療法センターの診察室横にございます。

● **いつ利用できますか？**

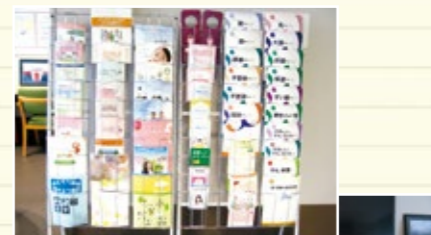
平日(月～金)の9:00～16:00にご利用いただけます。土・日・祝はお休みです。

● **だれが利用できますか？**

当院の患者さん・ご家族にご利用いただけます。

● **がんに関する相談はできますか？**

がんに関する相談は1F⑩「がん相談支援センター」でお受けしています。また、ご相談の内容に応じて専門スタッフが対応します。



平成28年度 さかいほのぼのカフェ開催内容(ミニレクチャー30分+談話会30分)

平成27年9月より、がん患者・家族サロンで毎月1回「さかいほのぼのカフェ」を開催しています。さかいほのぼのカフェでは、医療者からのミニレクチャーでがん治療に関することを学習したり、患者さん・ご家族同士が悩みや体験などを語り合ったりすることができます。経験談を聞くことで、気持ちが楽になったり、問題解決の糸口になることがあります。



平成28年度 開催実績・今後の予定	
月日	ミニレクチャー内容
5月10日(火)	抗がん剤治療中の日常生活①
6月10日(金)	抗がん剤治療中の日常生活②
7月15日(金)	談話会
9月15日(木)	がん治療とスキンケア
10月11日(火)	がん治療と栄養
11月10日(木)	緩和ケア
12月15日(木)	クリスマスイベント
2月10日(金)	がんの治療費と就労
3月10日(金)	がん治療とリハビリ

参加者の声

知らなかったことが多く、とても役に立つ内容でした。

体験談など聞いて勉強になった。

昨日まで気分的に落ち込んでいたので、とてもよかったです。

参考になる話・貴重な話が聞いて良かった。

...

さかいほのぼのカフェの参加は無料です。参加を希望される方は、がん相談支援センターへお問い合わせください。

がん患者・家族サロン「なないろ」

がんセンター 特集

がん患者さんやご家族同士で心の悩みや体験を語り合い、がんに関する情報を収集できる場として、設置しました。がんの治療や療養においては、さまざまな悩みに直面したり、気持ちが揺れることがあります。そのようなときに、ほかの患者さんの話を聞くことで、「自分と同じような不安や悩みを抱えている人がいる」ということがわかり、気持ちが楽になるものです。主に「患者さん同士の支え合い」を目的に誕生しました。

がん患者・家族サロン「なないろ」とは